

銀漢亭日録



伊藤伊那男

7月25日(木)▼朝六時前、金沢駅着。駅で蕎麦。身支度を整え、八時、レンタカーで白山山麓、別当出合へ。十時過ぎ、出発し、「甚之助避難小屋」、クロボコ岩などを経て十七時くらいに、「白山堂後ビクターセンター」という九百人収容の山小屋に入る。夕食後、二十時の消灯で寝る。十七年振りの登山。標高差千二百米余はきつい、きつい。登山ガイドブックの倍近い時間をかけた七時間登山。夜中、大雨が降った様子。

26日(金)▼夜中、三時五十分、鐘が鳴り、御来光が見られるとの会図。身支度をして暗がりの中を登山。五時前の御来光に間に合う。神官の合図で万歳三唱。あと噴火口跡の池などを巡る。小梅蕙草の当り年で圧巻。チングルマ、ハクサンフクロ、ゴゼンタチバナ、キンバイ、イワキキョウ……と、高山植物の宝庫。翠ヶ池のほとりでブロッケン現象(御来迎)に合う。十秒ほどの出来事だが過去の登山でも遭遇しなかった至福の現象!朝食後、八時過、下山へ。五時間半ほどかけて別当出合へ。歩いた歩いた。高齢者がこの外元気。旧白峰村の林西寺へ。ここに明治の魔仏殿釈になる迄に白山に祀られていた阿弥陀仏を始めとした仏像が安置されている。御住職の説明が明快。白峰村は越前と加賀の領地争いの地で、江戸期は折衷案で天領となり、明治から石川県に編入。住職はこれが不満。「私の顔は越前顔である!」と。高齢者を温泉宿に送り、日帰温泉で慌しく汗を流す。井蛙さんとレンタカーで金沢へ。駅中のおでんの「黒百合」におでん、かんどうの刺身、ハチメ(さより)の塩焼、魷魚のトロトロ昆布巻、泥鰌の蒲焼など。あと近江町市場に行き「口福」という店で白海老、いろいろ鍋など。井蛙さん、最終の新幹線で別れる。駅上のホテル「ヴィアイン金沢」に投宿。

27日(土)▼六時過ぎまでたっぷり睡眠。八時二十三分の「はくたか」にて佐久平経由で小諸へ。快晴。富山からの立山連峰が美しい。

3日(土)▼十時、運営委員会。昼食、「大戸屋」の四元豚のトンカツ。魏町会館にて「銀漢本部句会」五十四人。あと中華店で暑氣払い。三十人ほど。

4日(日)▼十三時、中野サンプラザにて「春耕同人句会」。波朗主宰、袖口満さん欠席。あと「炙谷」にて納涼会三十人ほど。あと窪田さん他とも一軒。

5日(月)▼洋、近恵さん、水内慶太さん、鈴木忍さん。三省堂の飛鳥勝幸さん。「諏訪市立信州風樹文庫」の講師の件で。日程合えば行くことに。「かさ、ぎ勉強会」あと九人。氣仙沼の一砂さん。皆川文弘さん。

6日(火)▼「俳句aあるふあ」秋号のグラビアへ料理三品のレシピとエッセイ送る。あ・ん・ど・うクリニックで降血圧剤貰う。暑い。店、「梅檀」の方々五人。「火の会」は七人と少ない。

7日(水)▼伊那谷の後輩、田中昇君夫妻。「ささらぎ句会」あと四人。「宙句会」あと九人。

8日(木)▼三輪初子さん、らくださんと仲間。毎日新聞の今井竜さん他。「極句会」あと九人。久々、光注さん。環さんと「パティオ」の仲間六人など繁忙。

9日(金)▼巨人軍高橋伸氏、義父小野寺さんの駒場東邦同期の会。清人さんが、牡蠣、帆立、海鞘、鰯、鮎など持ち込みあり。十五人ほど。

10日(土)▼「Oh! 納涼句会」。朽木直さんの采配。五句持ち寄り、あと三句、二句と計十句の句会。酒、肴、沢山持ち込みあり。あと水内慶太さん等で「大金星」。明日から夏期休業。

11日(日)▼終日家。角川「俳句」の十月号「や」「かな」「けり」以外の切れについての名句という依頼原稿、約十枚に悩む。夜、家族揃って夕食。鮎の山かけ、刺身、牛舌焼き、蒸鮑など。二十一時に寝てしまふ。

13日(火)▼角川に原稿送る。行方克己先生の句集「晩緑」評を三田俳句丘の会機関誌「丘の風」へ寄稿の準備。

14日(水)▼孫の怜輔君「おかあさんといっしょ」の夏休み版公演の

十一時半、小諸の蕎麦「刻」へ。うまい。「こもろ・日盛俳句祭」。今日は「北国街道ほんまち町屋館」の担当で「岳」編集長の小林貴子さんとスタッフ。十七日で句会。あとシンボジウムを聞いて親睦会。途中で抜けて「刻」。貸し切りで宴会をお願いした。銀漢グループ、行方克己先生グループ。「円座」主宰の武藤紀子さん。土肥あき子さんなど十五人。料理よし。あと和音さんの部屋でワインパーティ。

28日(日)▼二日酔。とろろ芋などの朝食は食べたものの不調。チェックアウトの十二時ギリギリまで部屋で愚図愚図。作句も。町のいつもの店で珈琲飲んで「ペルウインこもろ」の会場へ。十三時半からの句会。山田真砂さん、土肥あき子さんのスタッフで二十四人。十五時半まで。北軽句会から横沢、武井、佐々木さんが迎えに来てくれて銀漢勢八名ほどで嬉恋村柴山つぐ子山荘へ。中軽から別ルートでも仲間が来て数十名。北軽句会、十五名程の句会の面々が迎えてくれる。歓迎の横断幕二つ!庭にテントを張ってガーデンパーティースタート。ジャガイモ掘り、スイカ割りなども。五句出し句会もフルスピードで行い、二十時半、色々なお土産をいただいたて軽井沢駅へ送っていた。滞在時間三時間半ながら濃密な交流会。二十四時帰宅。無事、良い旅終える。

29日(月)▼店。予約なく、休み開けで心配していたが、常連さんがカウンターを埋めてくれる。水内慶太先生も見えて、私の誕生祝などの名目でウーヴクリコ二本空ける。

30日(火)▼閑散。二十時閉める。

31日(水)▼猛暑。エッセイ、礼状など。店、閑散。二十一時、閉める。逗田庵で小酌。

8月1日(木)▼七月の店の月次収支表作成。彗星集選評を書き、九月号の執筆終了。猛暑。店、「十六夜句会」句会あと八人。水内慶太氏、「すし屋の弥助」のすし差し入れ。毎日「俳句aあるふあ」中島三紀編集長他三人。

2日(金)▼「大倉句会」あと十八人。大塚製菓の原田さん三人と次女、杏子、麻美さん。二人共、大塚に勤めていた。十数年振りの再会と。麻美さんは「銀漢亭」のアルバイトをしてくれたことも

子役でさいたまスーパーアリーナへ。三日間出演と。孫、莉子の友人来ていたので夕食供す。ステーキ、ピーマンとソーセージ炒めなど。

16日(金)▼十三時半、京都着。白砂山荘へ。大文字の準備を遠望す。近くの蕎麦屋で昼酒。三条堀川のホテルに荷を解き、空也堂・本能寺跡など歩く。十九時半、京都御苑に給御門から入り、二十時の大文字の送り火の点火を待つ。ほぼ三十分位、消えるまで送る。二十一時過ぎ、宿近くの居酒屋「即今」にて酒盛り。井蛙、いづみ、麦、羽衣衣に凌雲、辻本美紗等が加わる。満月が美しい。

17日(土)▼二日酔い。十一時、米原。レンタカーにて、滋賀県長浜市の葛籠尾崎へ向かう。菅浦集落は二十年振りか。須賀神社に参拝。祇場から上は裸足(スリッパの用意あり)。淳仁天皇を祀る不思議な集落。竹生島を裏から見位置。「道の駅 塩津海道 あちかまの里」にて昼食。鮒寿司、小鮎の塩焼きなど貰う。巨大なニンニクも。己高閣を訪ね、鶏足寺の十一面観音、魚藍観音などを拝す。近くの石道寺の十一面観音も。ここで十六時になってしまひ、見学はここまで。長浜の「ホテルYess長浜駅前館」へ。十八時「割烹 能登」に入る。鮒寿司、小鮎の山椒煮、鰻のおとし、手長エビのかき揚げ、琵琶鱒の塩焼き、鮎鍋、瀬多、蜆汁、梅雑炊。酒は「七本槍」で通す。湖の幸を堪能する。名店!部屋に戻り、買置ききの鮒寿司、小鮎など二代会。京都では三句出し句会。長浜では四句出し句会であった。

18日(日)▼今日も快晴。二十一時過、長浜城跡へ。鉄筋の天守閣が歴史博物館で、天守閣からの眺望がいい。十時半、北国街道に面した「翼果楼(よかろう)」。江州の郷土食鮎そうめんのお店。焼鮎すしや鯉子まぶしの洗い。買物をして米原から新幹線。昏睡。東京駅で小酌。解散。

19日(月)▼九日間の夏期休暇終えて店。俳人協会の夏期講座スタッフ、佐賀直美さん他五名の反省会。八戸の「たかな」主宰吉田千嘉子さんを囲む会。井蛙、展枝、小石さんで五句出し句会。「演劇人句会」あと七名。